

SMILE

☆ 今月も笑顔(スマイル)でスタート! ~

4月号 Vo1.52

今月の SMILE

カタコトの日本語

まいどおおきに!

4月1日から日本では改正入管法が施行され、新しい在留資格である「特定技能」が動き出します。政府は、新しい在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の新設により、人手不足が深刻な業種に対して、2019年の4月から5年間で約34万人程度の外国人労働者を受け入れる方針です。

この政策が、日本にとって本当に良いのかどうかをここでは論じませんが、近年、移民の受け入れをしたドイツでは、メルケル首相が2015年9月に、移民受け入れは無制限だと宣言しましたが、その後、自分たちが呼び寄せた多数(申請に却下された)の移民を強制送還するという事例があります。ですから、移民政策は移民と現地人の両方を不幸にする政策になりかねないことも留意すべきと考えます。

このような中で、3月に大手コンビニエンスストアチェーンの都内にある店舗で、来店客の「人種差別と言わざるを得ない発言」に対する抗議の貼り紙がツイートされて同店の対応を支持する大きな反響を呼んでいるという記事がありました。貼り紙にはこのような文言が書かれてあったようです。「特定のお客様から人種差別と言わざるを得ない発言がありました。今後このようなことがあれば差別として強気に抗議いたします。またそのような方の来店は拒絶いたします」。このツイートに対するコメント欄には「外国人の日本で働いている人って、カタコトの日本語と癒される笑顔で精一杯対応してくれるから応援したくなるし微笑ましいと思わないのかな?」「バイトテロしている日本人より頑張って仕事している外国人を応援したい」「彼らがいないと農業も漁業も酪農も観光も、コンビニも回らないんです。うちの近くのパン屋の店員さんはベトナムの娘さん。明るい笑顔でこちらは一日癒されています」といった意見であふれたそうです。

このツイートをした方は、「異国の地で一生懸命働いている中で、傷つくことを言われるのはかわいそう、人として、相手を思う想像力が欠如している」ということから行動を起こしました。

外国人労働者の受け入れることを政策として決まった今、多様性を受け入れる社会について日本はもっと考えなければならなくなったような気がします。

そういえば、私も、上海市内でのカタコトの中国語で、中国人から厭な思いもしたときもあれば、一方で、笑顔で接してもらったときには、その日一日がハッピーになった、という経験をこの記事を見て思い出しました。

それでは今月も笑顔(スマイル)でスタートしましょう!





2月PPIは伸び横ばい、CPIは1年ぶり低い伸び 内需鈍く

国家統計局が発表した2月の生産者物価指数(PPI)は前年同月比0.1%上昇し、伸び率は1月と変わらず、2016年9月以来の低水準だった。伸び率はロイターがまとめたアナリスト予想(0.2%上昇)も下回った。

同時に発表された2月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比1.5%上昇し、2018年1月以来の低い伸びとなった。食品価格の上昇鈍化が重しとなった。伸び率はロイターがまとめたアナリスト予想と一致したものの、今年の政府目標である3%前後に届かなかった。1月は1.7%上昇していた。

今回示されたインフレ圧力の鈍化は、中国の内需減速を表す新たな材料。中国経済が失速する中、デフレの兆候は中国政府がより積極的な景気刺激策を打ち出すのを後押しする可能性がある。

ノムラのアナリストは2月のCPI・PPI発表後に出した顧客向けノートで、最新のインフレ指標から主に2つのことが読み取れると指摘。「第1にインフレ圧力が引き続き抑制されており、おそらくそれが成長減速を反映している点。第2に、CPI上昇率は2019年の政府目標を大きく下回って推移する可能性が高く、それは今後の政策緩和余地が大きいことを示している」とした。

PPIは前月比では0.1%低下。ただ、1月(0.6%低下)ほどは落ち込まなかった。

PPIの内訳では、原材料価格が前年比1.5%低下。1月は1.6%低下していた。また、2月は生産セクターでも価格が下落した。ここ数カ月間にわたり企業利益が減少傾向をたどる中、生産者物価が低下し続けることで多くの中国企業の利益が一段と圧迫されることになる。

CPIは前月比では1.0%上昇。

食品価格は前年比0.7%上昇。1月の1.9%から伸びが大きく鈍化した。変動の大きい食品とエネルギーを除いたコアCPIは前年比1.8%上昇し、1月の1.9%から伸びがやや鈍化した。

中国ドル建て輸出、2月は前年比20.7%減、3年ぶりの大幅な落ち込み

税関総署が3月8日発表した2月の貿易統計によると、ドル建て輸出は前年同月比20.7%減となり、減少率は2016年2月以来の大きさととなった。一方、輸入は3カ月連続で減少した。当局は支援策を相次いで打ち出しているものの、一段の景気減速が示された。

2月輸出はアナリスト予想(4.8%減)を上回る大幅な落ち込みとなった。1月は9.1%増だった。

2月の輸入は5.2%減と、こちらも市場予想(1.4%減)を上回る減少となった。1月は1.5%減少した。

貿易収支は41億2千万ドルの黒字で、黒字幅は1月の391億6千万ドルから急減し、市場予想の263億8千万ドルも下回った。

2月の対米貿易黒字は147億2千万ドルで、黒字幅は1月の273億ドルから縮小した。米中通商協議の一環として、中国が農産物など米製品をより多く輸入したことが背景。欧州を中心に世界の需要は鈍化しており、2月の主要市場への中国輸出は減少した。

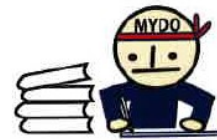
アナリストによると、この時期の中国の貿易統計は旧正月の影響で変動が大きくなる傾向がある。しかし専門家の多くは、国内と輸出の受注低迷が調査で示され、米中貿易戦争が続く中、今年の貿易統計は弱いスタートとなることを予想していた。

2018年の中国成長率はほぼ30年ぶりの低水準を記録し、世界の投資家や中国の主要貿易相手国は、中国経済の減速に注目している。

ANZのグレートチャイナ部門チーフエコノミスト、Raymond Yeung氏はレポートで「きょうの貿易統計は、中国貿易のリセッションが明らかになり始めたとのわれわれの見方を強めた」と指摘。「輸出は昨年12月に既にマイナスとなっていた。1月の好調な数字は、旧正月の時期を受けたデータの歪みを理由に信頼性は低い」とした。

貿易統計の発表を受け、アジアの株式市場と米株価先物は下げ幅を拡大した。





増値税に関する新減税政策

2019年3月5日に開催された全国人民代表大会の「政府活動報告」において、増値税の改革を深化させ、製造業などの業種の税率を現行の16%から13%に、交通運輸業や建築業などの業種の税率を現行の10%から9%に引き下げる方針が示されていた。この減税方針に基づき、財政部・税務総局・税関総署の3部署が近日、一連の関連政策の詳細規定を公布し、2019年4月1日より施行されます。

主な内容は以下の通り。

I、増値税税率、控除率、輸出還付率などの調整

1. 増値税税率の引き下げ

増値税課税行為	税率	
	調整前	調整後
貨物の販売・輸入、加工修補役務、有形動産リース	16%	13%
交通運輸、郵政、基礎電信、建築、不動産賃貸サービス、不動産販売、土地使用権譲渡、及び以下の品目に関する貨物の販売・輸入 ①穀物などの農産品、食用植物油、食用塩 ②水道水、暖気、冷氣、熱水、ガス、石油液化ガス、天然ガス、メタンガス、ジメチルエーテル、民用石炭製品 ③図書、新聞、雑誌、音響製品、電子出版物 ④飼料、化学肥料、農薬、農業機械、農業用フィルム ⑤国務院が定めるその他の貨物	10%	9%

2. 控除率の引き下げ

増値税課税行為	控除率	
	調整前	調整後
農産品の仕入れ	10%	9%
納税者による13%の貨物の生産・販売もしくは委託加工に用いる農産品の仕入れ	12%	10%

3. 輸出還付率の引き下げ

増値税課税行為	輸出還付率	
	調整前	調整後
従来16%の税率が適用され、且つ輸出還付率が16%の輸出貨物	16%	13%
従来10%の税率が適用され、且つ輸出還付率が10%の輸出貨物・クロスボーダー課税行為	10%	9%

4. 外国人観光客への税還付率の引き下げ

購入物品で13%の還付率が適用されていたものは11%、9%のものは8%に変更される。

II、仕入控除対象の範囲の拡大

1. 納税者が取得した不動産、或いは不動産の建設中工事に係る仕入税額に対し、従来、取得した日から2年間に渡って売上税額から控除することから、2019年4月1日より一括で全額控除できることに変更される。
2. 仕入れた国内旅客運輸サービスに係る仕入税額を、売上税額から控除することが認められる。
3. 2019年4月1日から2021年12月31日まで、生産、生活性サービス業の納税者は、当期控除可能な仕入税額に10%を加算で控除することが認められる。
また、この政策を適用する企業は、税務局へ「加算控除政策の適用に関する声明書」の提出が必要となる。

III、増値税期末留保税額還付制度の試行

一定の条件に適合する納税者に対し、2019年3月末と比べ新規増加の期末留保税額の還付が認められる。

今回の税率調整に伴い、2019年3月末までに發票発行システムのアップデートが必要となりますので、ご注意ください。また、取引契約で増値税込みの価格で合意していることも多く見受けられますが、増値税發票を2019年4月1日以降に発行する場合、取引価格の変動があるか否かは、取引先と慎重に確認することが必要です。

都市部従業員の養老保険の企業納付比率が20%から16%に切下げられます

財務部劉昆部長は、3月24日に開幕された中国発展フォーラムの中で、2019年5月1日から、都市部の従業員の基本養老保険の企業の納付比率を20%から16%に引き下げ、企業の保険料の比率を軽減することを発表しました。

今年の中国は、企業からの税収と社保の納付費負担が5万億元を軽減することを予想されています。劉部長は席上で、できるだけ早く関連政策案を打ち出して、減税の財源を確保し、市場の主体である、特に小さいマイクロ企業が、負担が軽減されることを感じさせたいと語った。

企業の負担費を下げることについては、従業員の基本養老保険単位の納付比率を下げるほか、段階的に失業や労災保険料率の引き下げを進める方針を示した。

2019年の上海市[最低賃金]が公表されました

3月25日に、2019年の上海市[最低賃金]が公表されました。2018年[2,420元](手取り)→2019年[2,480元](手取り)。引き上げられた額は、わずか[60元]でした。上海市最低賃金の伸び率[前年比2.4%増]は、1993年に最低賃金が導入されて以来、[史上最低]の伸び率です。1998年に「アジア通貨危機」を受けての大不況時代でも最低賃金の伸び率は、[3.1%増]あったのですが、今回は、それすらも下回る伸び率になりました。昨今話題の「減税」政策。また、北京中央政府で決定された5月1日から実施予定の養老保険(社会保険の一種)の会社負担分を[20%から16%に引き下げる]政策。(※ 上海市政府からは3月25日現在ではまだ正式な発表はなされていません)

今回、史上最低の伸び率となった[最低賃金]は、政策として企業負担を軽減せざるを得ないほどの経済的な実情を反映している、、、のかもしれない。

上がりすぎた賃金ゆえの宿命なのかもしれません…！

まだ、未発表ながら、4月1日から実施になる新しい[社会保険基数]の基準となる上海市の[前年度平均賃金]の数値、伸び率がどうなるのか？

ちなみに[上海市の最低賃金の定義]は『手取り額』です。社会保険料、住宅積立金、残業手当、高温手当、昼食手当や通勤交通費なども[含まない]金額になっています。

[浙江省の最低賃金]には、「社会保険料」と「住宅積立金」が含まれる、[江蘇省の最低賃金]は、「社会保険料」だけが含まれる、といったように、各地で定義が異なっていますのでご注意くださいね。

情報提供:コゾノ式 良くなる人事・組織研究所



『日本の生存戦略』-衰退か再興か-

こんな衝撃的なテーマがビジネス紙の特集で取り上げられました(東洋経済 2019年1月19日号)
最近、かなり有名になってきたイギリス人の金融アナリストでもあり、また経営者でもある、デービット・アトキンソン(ちなみに日本在住歴30年)のインタビューをもとに編集された特集です。内容もかなり衝撃的ですが、筆者なりにサマリーを作ってみました。

1. 日本が経済大国であるのは、人口大国であるからである
GDP=生産性(一人当たりGDP)×人口である。
日本は人口大国であるが、生産性が低い。
→ 筆者調べによれば、2017年度におけるドルベースの名目GDPは世界3位、人口は世界10位、生産性は世界25位

■ 米国などと西欧の成長率の差は人口増加が要因
—1913～2010年の平均経済成長率とその要因—

	1913～2010年		
	人口増加	生産性	経済成長率
米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	1.29	1.79	3.08
西欧	0.47	1.85	2.32
東欧	0.42	1.79	2.21
旧ソ連	0.66	1.70	2.36
ラテンアメリカ	2.05	1.52	3.57
アジア	1.48	2.28	3.76
アフリカ	2.17	0.83	3.00
世界	1.38	1.67	3.05

(出所)E. Wesley F. Peterson『The Role of Population in Economic Growth』

世界の一人当たりの名目GDP(USドル)ランキング

順位	名称	単位: USドル	前年比	地域	推移
1位	ルクセンブルク	106,863.23	→	ヨーロッパ	📄
2位	スイス	80,637.38	→	ヨーロッパ	📄
3位	マカオ	77,111.00	↑+1	アジア	📄
4位	ノルウェー	75,389.48	↓-1	ヨーロッパ	📄
5位	アイスランド	70,248.27	↑+1	ヨーロッパ	📄
20位	ベルギー	43,488.49	→	ヨーロッパ	📄
21位	ニュージーランド	41,572.27	↑+1	オセアニア	📄
22位	イスラエル	40,272.97	↑+3	中東	📄
23位	フランス	39,932.69	↑+1	ヨーロッパ	📄
24位	イギリス	39,800.27	↓-3	ヨーロッパ	📄
25位	日本	38,448.57	↓-2	アジア	📄

世界の名目GDP(USドル)ランキング

順位	名称	単位: 10億USドル	前年比	地域	推移
1位	アメリカ	19,485.40	→	北米	📄
2位	中国	12,014.61	→	アジア	📄
3位	日本	4,873.20	→	アジア	📄
4位	ドイツ	3,700.61	→	ヨーロッパ	📄
5位	イギリス	2,628.41	→	ヨーロッパ	📄
6位	インド	2,602.31	↑+1	アジア	📄
7位	フランス	2,587.68	↓-1	ヨーロッパ	📄
8位	ブラジル	2,055.14	↑+1	中南米	📄
9位	イタリア	1,938.68	↓-1	ヨーロッパ	📄
10位	カナダ	1,653.04	→	北米	📄

2. つまり、少子高齢化で人口減少すれば、生産性を上げない限り、日本経済は縮小する
先日、2040年の就業者数は2017年から20%減少し5,245万人に減少するという推測が報道されました(日本経済新聞 2019年1月19日)

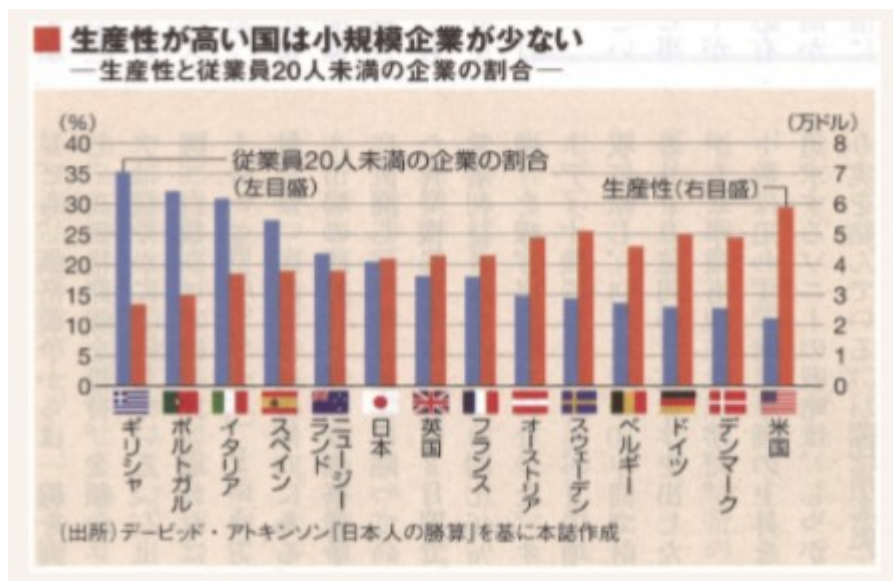


世界の人口ランキング(2017年)

順位	名称	単位: 100万人	前年比	地域	推移
1位	中国	1,390.08	→	アジア	📄
2位	インド	1,316.90	→	アジア	📄
3位	アメリカ	325.89	→	北米	📄
4位	インドネシア	261.99	→	アジア	📄
5位	ブラジル	207.68	→	中南米	📄
6位	パキスタン	197.26	→	アジア	📄
7位	ナイジェリア	188.09	→	アフリカ	📄
8位	バングラデシュ	163.19	→	アジア	📄
9位	ロシア	143.99	→	ヨーロッパ	📄
10位	日本	126.75	→	アジア	📄

3. 日本人の抱いている「日本は技術大国である」というのは妄想である
ごく一部の企業はそういえるが、「平均」すればそう言い切れる事実は発見できない。
米国の成長は「イノベーション(技術革新)」によるところもあるが、「人口増加」要因も大きい。

4. 日本は、中小企業数が多すぎる賃金を上げられない中小企業が多く、全体の生産性を下げている。
賃金をあげられない中小企業・業種が「人手不足」を主張している。
日本人はアットホームな中小企業がそもそも大好きである。



5. 「生産性向上」=「コスト削減による効率化」ではない

本来、付加価値を高めることで生産性を上げなければならないが、日本人はこれが苦手であり、発想の豊かさにかけておりクリエイティブでないといえる。

処方箋は3つ

①国が主導して、最低賃金を大幅に引き上げる

最低賃金が上がると利益が圧迫されるため、企業は生産性を高める努力をせざるを得ない

②企業合併を進める

企業規模と生産性には強い相関があるし、合併を勧めれば過当競争が緩和され事業の安定性が増し、生産性を追求しやすくなる。

③安売りをしない

価格を下げればマイナス分を上回る需要が生まれ売り上げや利益が得られるというのは人口増加時代のセオリーであり人口減少時代に求められるのは値段が高くても買ってくれる消費者に照準を合わせたビジネスである。

マクロ的に見れば、「ごもつとも」と頷けるのですが、いざ、経営者自身(筆者含めた)が「安売りしない」「付加価値をあげる発想を持つ」を実践するとなるとこれはかなりの覚悟と戦略が必要になりますね。

2019年も経営者にとっては大変な一年になりそうです。



特別連載読み物



ナニワのおっちゃん経営道！

《新コーナー》 社会人・企業人としての「ものの見方・みえ方」について語る！

第47回：勘違いをしなさんな！『プライド』と『見栄』は、“ピン”と“キリ”！！

いよいよ春到来！

3月に入ってからすぐ、我が家のマンションのベランダから、“鶯”の美しい声が聞こえるようになりました。

“ホオ～～、ケキョ！ ケキョ！！” “ホオ～、ホケキキョ！！！”。

毎年、律義に、春のあいさつをしてくれています。

静かな朝、なんとなく、ちょっぴり幸せ感を覚えるひとときです。

そんな鶯に、“今年も、美しい声を届けてくれてありがとう！ お前は、去年も鳴いてくれたあの鶯なのか？、元気だったか？？” …と、1年ぶりの再会？に、こちらからも声を掛けてやりたくなります。（鶯は、何年生きるのでしょうか？）

さて47回目の今回は、人間が高い位置に挑もうとするときの「自分の心のありよう」について、考えてみましょう。ちなみに、「最高のものから、最低のものまで」を表現するとき、“ピンからキリまで”…という言い方をしますが、これを、「人間の心のありよう」として捉えるとき、「最高のもの」とは、“誇り高きもの”をさし、「最低のもの」を、“醜きもの”をさすのではないかと思います。そしてまた、“誇り高きもの”からは、自己価値を高める『プライド』という言葉、“醜きもの”からは、自分をごまかし、より大きく・立派に見せようとする『見栄』をという言葉をイメージします。ところが世間では、『プライド』と『見栄』という、中身のまったく異なる二つの言葉が、間違っ、同じように使われていることが多いように思うのです。

例えば、上司Aさんが、部下Bさんの失敗を知って叱ったのです。すると、Bさんが、“『プライド』に傷がついた！”…と言って、怒りだしたのです。もちろん、Aさんの叱り方にもよりますし、Bさんの叱られた理由にもよるでしょうが、よほどの間違いでない限り、上司のAさんに叱られたからと言って、部下のBさんのプライドが傷つくなんてことは決してありません。だって、上司のAさんは、部下のBさんを、叱りながら正しく指導するのが務めなのですから。この場合のBさんは、Aさんに叱られたことによって、『プライド』ではなく『見栄』っ張りの心に傷がついたのではないのでしょうか？！これが逆に、上司のAさんが、なんかの折に部下のBさんに叱られたとすれば、それこそよほどの理由がなければ、Bさんの『プライド』は、ズタズタに傷つくことでしょう。部下が上司から叱責を買うなんてことは、当たり前のこと。むしろ、叱責を受けながらも、いろんなことが学べて、“ありがとう…！”の世界ですよ。

今後、仕事上でも、夫婦間でも、友人同士でも、それぞれの立場・性格などの違いから、意見の違い・見解の違いが生じた折には、『見栄』を張って、自己主張にこだわるのではなく、相手の立場により沿い、相手を理解し、『プライド』をもって、様々な事象に対応してください。

きっと、意見の異なる相手をも巻き込んだ、大きな仕事が可能になることでしょう！！

お問い合わせは
MYDO まで!!



(お問い合わせ先)

上海滿意多企業管理諮詢有限公司

〒200336 上海市長寧区 延安西路 2201 号

上海国際貿易中心 2415 室

T E L : +86-21-6407-0228 F A X : +86-21-6407-0185